

平成 23 年度第 2 回松阪市環境パートナーシップ会議全体会

日時 平成 23 年 12 月 9 日(金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

場所 松阪市産業振興センター 3 階研修ホール

出席者

24 名

会長

朴 恵淑(三重大学理事・副学長)

副会長

横井 美登(松阪市自治会連合会)

市民・市民団体 12 名

坂下喜代一、鈴木博、滝本玲子、中北喜彦、林田淑、飯南地区生ゴミ堆肥化研究グループ(辻根)、嬉野アイリス(小坂)、健康・福祉・環境日本一をめざす市民会議(伊藤)、松阪市自治会連合会(鎌倉)、松阪市 PTA 連合会(横山)、三雲アイリス(中村)、三雲食生活改善推進連絡協議会(山本)

事業者 5 社

生活協同組合コープみえ、セントラル硝子株式会社、東海ゴム工業株式会社、マックスバリュ中部株式会社、ヴァーレ・ジャパン株式会社

アドバイザー

西孝(三重中京大学地域社会研究所)

オブザーバー

三重県松阪農林商工環境事務所

事務局 3 名

三田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、環境推進係(垣本)



議事の内容

- 事務局(環境課長)あいさつ
- 会長あいさつ

1. 副会長の選任

※前副会長死去に伴い会員に対して副会長選任をお願いするが、自薦他薦がないため、事務局より松阪市自治会連合会横井氏を推薦。会員の拍手により承認される。

2. 平成 23 年度の活動報告

※事務局より説明

3. 平成 24 年度の活動内容について

※事務局よりリサイクルセンターを活用した各部会の開催、「緑のカーテンプロジェクト」、「環境フェアプロジェクト」について説明

会長 : 平成 23 年度においては「緑のカーテン」と「環境フェア」の成功が、松阪市環境パートナーシップ会議の実績になったと認識している。平成 24 年度は、今回出てきた課題を克服していくことになると思う。まず「緑のカーテン」だが、今年は苗の育成についてはそれほど問題は無かったように思う。今後は生ゴミ堆肥化とのタイアップも考えてはどうか。また、今年採れた種から苗への育成を、高校も含めたいろんな機関の協力で、三位一体の協働の考えで、来年に向けて今からパートナーシップ会議で取り組んでいく必要があると思う。「緑のカーテンと言えば松阪」と誰もが迷いなく言えるように、24 年度はジャンプアップしていきたいと思っている。それには量と質が重要。より多くの家庭、事業者、団体が関われるような量的拡大、また、種からカーテンまでの育成を、「松阪モデル」として他が学べるようなものにする工夫が必要だと思う。誰もが是非作ってみたいと思うきっかけ作りになるようなコンテストを開催するにあたり、より多くの方々の支援を得るような仕組みになるように考えるのが「緑のカーテンプロジェクト」だと思う。今回集まった皆さんには、是非とも意見を出して欲しい。次に「環境フェア」だが、気がついたら環境に対して考える機会が持てるような仕組みを、さらに素晴らしいコンテンツにするため、多くの企業や団体、学校、自治会等で関わっていくように考えていくというのが、このプロジェクトの課題ではないかと思う。先ほどの事務局からの案にもあったが、リサイクルセンターの利活用の方法もプロジェクトとして立ち上げてはどうか。また、事業者は可視化のメリットを考えて、環境への取り組みについての説明をプロジェクトとして活性化していくのも有りだと思う。以上、事務局から提案された 24 年度の活動について、皆さんからの意見が立ち上げやすくなるように説明したが、意見があれば遠慮なく言って欲しい。

会員 : このパートナーシップ会議はマネジメントに徹して、活動については市民の誰もが参加できるようなシステムにしてほしい。市民団体の中にはこの会議のことを知らない団体もあるし、また行政の関係したものには関わりたくないという団体もいる。マネジメントだけに徹してサポートする立場に回ってもらえれば、もっと参加する市民団体も増えると思う。苗の育成も、民間で賛同して育成してくれる人も多いと思う。活動内容をもっと広報すれば、協力してくれる人は出てくる。是非自治会長向けの講座など開いて、協力を仰いでほしい。

会長 : 苗に関しては事務局も悩んでいるが、今の意見はどうか？

事務局 : 他の人に頼む方法もいいが、パートナーシップ会議の会員で種から育てて緑のカーテンに育てていく方法や、緑のカーテンに取り組んでいる教育

機関に会員が参加して苗から地域で育てていく方法なども、事務局では来年度案として考えている。

会長 : パートナーシップ会議はマネジメントに徹して、それに協力する意志のある市民、団体が地域で行動するという方法だが、これは正にパートナーシップ会議の目標である。ここにいる会員だけでは無理なことも、既存の団体を通して広めていく。それがあべき姿だと思う。ただ、まだこの会議の周知がそれほどできていないので、来年度すぐシステムを変えることはできないが、今年ネットワークが出来た部分を来年度動かして、その次に繋げていけるように力を入れていこうと思う。事務局に質問だが、パートナーシップ会議の活動について広報紙に載せる頻度はどのくらいあるのか？

事務局 : 環境部としては、2~3ヶ月に1度の割合で掲載する枠組みがある。発行する2ヶ月くらい前には原稿を用意する必要がある。

会長 : では、紙ベースとしては常に原稿を用意しておいて、いつでも投稿できるようにしておくようにする。また、ホームページを充実して、いつでも情報を得ることが出来るようにしておく。内容が良ければマスコミは掲載するので、事務局は努力してほしい。

会員 : SNSも利用してほしい。

会員 : 緑のカーテンの周知方法として、住民協議会の中の環境部会に理解と協力を求めるといいと思う。

アドバ : メディアを使って種から育成する方法を周知するとか、三重県の農業センターに聞くとか、いろいろ方法はある。緑のカーテンは省エネ効果もあるが、そういったところは事業者の方が詳しいので、知恵を出してもらえればと思う。

会員 : 緑のカーテンコンテストを松阪市長が表彰することはできないのか？市長が表彰したほうが、もっと大きなものになるのではないかと。また、松阪市内のリサイクル事業を見学できるといいと思う。分別によってどのくらいリサイクルが進んでいるのか、市民にはわかりづらい。そういった仕組みをPRできるような講演会を定期的を開催し、松阪市のリサイクルについて理解できるようにする。今年環境フェアの人数が増えたからといって、自己満足で終わらないようにする。予算が無いというが、PRには金がかかるのは当然のこと。

事務局 : 環境パートナーシップ会議とは市民、市民団体、事業者、行政が同じ立場で「環境にやさしい行動」を推進する推進母体として存在しているた

め、今回の表彰も環境パートナーシップ会議から広めていくという考えで行っている。その辺りをご理解いただきたい。

会長 : では、今回のまとめとして、「緑のカーテンプロジェクト」は多くの方々の協力を得るべく活動し、事務局は成功に向けてサポートしていく。「環境フェアプロジェクト」は開催時に緑のカーテンコンテストを行うため、少し趣を変えていく。人と共に語る会としてトークの場を設け、コミュニケーションを図り、コンテストの表彰式を行うなど、プロジェクトを発展させるべく議論してほしい。事業者の取り組みは市民からの関心が高いので、事業者を見学できるような「親子環境学習会」を開く。多くの人に参加できるように、事業者とタイアップして複数の見学コースを作る。リサイクルセンターの利活用については、その仕組みを考えるプロジェクトを考える。これだけで来年度は4~5のプロジェクトができる。今日出された意見をまとめたが、まだ他にあれば提案してもらおう。

4. その他

事務局 : 12月11日に津のメッセウイングにて「緑のカーテン」優秀者の作品を紹介する。

会長 : 他に無ければ、今日はこれで終わります。